

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第53号
令和6年(2024年)
4月1日 発行



響き合う桜と水面^{みなも} (大阪市住之江区、住吉公園)

二〇二四年元日、石川県能登地方を震源とする地震が発生し、たくさんの方が被災し、建物の倒壊や火災、道路の寸断など、多大な被害をもたらしました。連日テレビで報道される状況を見ると、被災された方々が想像を絶するほど、苦しく辛い思いをされているのだと心が痛みます。

さらに、一月ということもあり、除雪作業に時間を要し、復旧作業が思うように進まず、私たちの生活に必要不可欠なライフラインが機能しない辛さもあつたと思います。

どれが欠けても私たちの生活に支障の出るまさに命綱ですが、その中の通信手段の一つであるSNSで、今、苦しんでいる方々を励まし、応援するたくさんの方々の声を見た時、決して他人事ではない、人と人の繋がり、温もりを感じました。

壊れた道路や水道管を直すライフラインの復旧はもちろんですが、日々、大変な思いで生活されている方々に寄り添う心の復旧も大切だと感じました。

(中井翔隆)

と う ひ が ん 到 彼 岸



それぞれにいい

高照寺 すみや としき 隅谷俊紀

トルのアルミ製やかんが一つあります。昔はこれでお湯を沸かしお参りに来られた方にお茶を出していたのだと思いますが、今ではお餅つきの二日間が活躍の場です。

新しいやかん

例年、このやかん一つで回していましたが、以前からもう一つ必要だと感じていたので、近所のホームセンターに買いに行きました。売り場にあったのはステンレス製のやかん。十リットル入るものだったので、迷うことなく購入しました。

ところが帰って妻に聞くと、ステンレス製のものは熱伝導が悪く、沸騰するまでに時間がかかるとのこと。やかんを買って意気揚々としていたのが、それだけで意気消沈することに。

でもよくよく考えると、温めにくいということは、冷めにくいということ。

ステンレス製はアルミ製に比べ、丈夫で長持ち。利点もたくさんあります。

みんないい

「みんなちがって、みんないい」（金子みすゞの詩）、「みんなみんな意味がある」（佛光寺の法語）。法話の場でのようなお話をしていましたが、やかんに対して沸きやすさだけで優劣を決めつけていた私。ともすればやかんだけでなく、人に対しても無意識に比較しているのかもしれない。

そんな私の闇が、新品で光輝くステンレス製のやかんに、照らされ、あぶりだされているかのような年末のお餅つきでした。

そして当日は、それぞれの特長を活かして、二つのやかんにがんばってもらいました。

毎年年末には杵と臼を使って二回お餅つきをしています。一回目は子どもたちを集めて、二回目はお鏡作りをご門徒の皆さんと。

古いやかん

お餅つきをするには、もち米を蒸したり、石臼を温めたりと、たくさんのお湯が必要です。お寺には「昭和五十年 高照寺婦人部」と書かれた十リッ



如にょ是ぜ我が聞もん

自分を見つめる

大阪教区 最勝寺 中井賢隆師なかい けんりゅう



生きにくくなった。しかし、ろんなものを踏みつけてきた自分の生き方に気づかせてもらうようになったことが有り難いというのです。

仏教に出遇っても、自分心の尺度でしか生きられないという私は何も変わりません。

しかし、そのような生き方をしている自分の姿に気づいていくことができる、仏さまの尺度を中心に据えた新しい生活が始まっていくのです。

それは「三六〇度の転換」ともいえるべき生きる姿勢の大きな変化です。

このように大悲に生きる人と出遇い、仏の願いに生きるというところに、人となっていく。それが基本理念を生かしていくということであると聞かせていただきました。

(門川崇志 記)

令和五年七月二十六日、大阪別院にて「慶讃法会基本理念をどう生かしていくのか」を講題として法友会研修会が開催されました。

十九歳の時、法然聖人と出遇い、本願念仏に生きる道を歩み始めました。

雑行とは、私の尺度で物事を考え、生きていくということを考え、生きていくということです。

とです。これを「棄てる」とはどういうことなのか。

中井賢隆師に「大悲に生きる人とあう 願いに生きる人となる」という基本理念を、私たち自身の歩みにどう生かしていくのかということについてお話しいただきました。

雑行ざいぎょうを棄すてて

「建仁辛酉かんのしちゅうの暦、雑行を棄てて本願に帰す」。親鸞聖人は二

いく。それが「雑行を棄てて本願に帰す」という言葉の中心身であるということでした。

本願に帰す

ある方が「南無阿弥陀仏の教えに出遇って、生きにくくなりました。でも、それがうれいのです」とおっしゃったそうです。

それは「放ほうる」というニュアンスに近いのではないかと、ということでした。自分中心のものを見方を止めることは私にはできません。しかし、私の私の尺度から一旦離れ、「本願」という仏さまの尺度で、自分のものの見方を点検して

念仏に出遇い、自分の足元に転がって今まで踏みつけてきたものに、つまずくようになつた。気にもならなかつたことに歩みが止められ、

大阪探検

大阪 코리아タウン



連日賑わう大阪 코리아タウン

JR鶴橋駅の南東1キロに、年間200万人が訪れる一大観光地 코리아タウンがあります。キムチやチジミ、豚肉などの韓国食材や民族衣装、韓流ドラマ・Kポップスターのグッズ等を扱う約150店が軒を連ねています。最近は特に韓国コスメの専門店や食べ歩きできる店も増え、多くの若者らで賑わっています。

この界限はかつて、猪飼野いけのという地名であった地域の真ん中にあります。「猪甘いけいの津」という港であったことが地名の由来であり、百濟からの渡来人が猪ぶたの飼育をしていました。

時代を経て

1920年代には「日本国猪飼野」と住所地に書くだけで、朝鮮半島とりわけ済州島からの

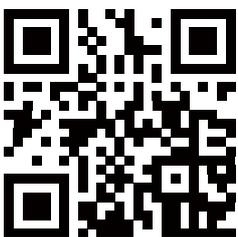
郵便が届いたといわれます。当時大阪は工業都市へと様変わりしつつあり、日本の植民地化のもと困難な生活を強いられた島民が急増、人口の約25%の5万人余が、この地に移住して来ました。

出稼ぎ労働者も増える中、同胞を相手に商売を行う人々があらわれ、朝鮮市場と呼ばれるようになりました。朝鮮半島の食材、物品が一所に集まる特異性を活かし御幸森神社近くの商店街が 코리아タウンへと変貌を遂げました。

大阪 코리아タウン 歴史資料館

昨年4月 코리아タウンの一角に歴史資料館がオープン。この地域を生み出した猪飼野の歴史は、古代から現在に到る生野区での多文化共生の町づくりに結びついています。なかでも20世紀以降の日本と朝鮮半島を含む東アジアの歴史が 코리아タウン周辺に集約されていると言っても過言ではありません。その歴史と文化をわかりやすくタッチパネルで紹介、また多くの書物や、歴史的な資料も展示されています。

(長田 譲)



お店を訪ねて

京佛具調進森田屋 福野御佛具處 (京都市南区)

京都西九条、東寺のほど近くで1862(文久2)年に、手先の器用だった初代福野小三郎氏が佛具處を創業されました。以来160年以上にわたり堅実に家業の理念を守り、すぐれた伝統の技を継承しております。今回は、四代目の孝治氏と五代目の要氏に佛光寺とのご縁についてお伺いしました。

本山佛光寺本堂再建

「1864(元治元)年の元治の大火で焼失した本山佛光寺の本堂は、1904(明治37)年に再建されました。その時に内陣御宮殿くわんどんなどを二代目幸治郎が請け負わせていただきました。その出来栄えが佛光寺さんに認められその後もお仕事を頂戴するようにになりました」

「大正12年の関東大震災で倒壊した佛光寺東京別院(現 西徳寺)の本堂再建工事も二代目が内陣莊嚴佛具



四代目の孝治氏(右)と五代目の要氏

一式の設計と製作をしました」とお話しく下さいました。その内陣のあつ誂えがまた素晴らしく、仏教美術工芸の粋であると東京別院の同行から評されたそうです。

ところが第二次世界大戦ですべて灰となってしまい、またまた復興に際し、先達の技術を継承して再々建を引受けられます。

佛光寺大阪別院も昭和37年に大阪船場の平野町から今のあびこ苅田に移転する際、内陣のお莊嚴の移動を福野さんが請け負って下さいました。また大阪別院の宗祖親鸞聖人750回大遠忌法要の記念事業、宗祖のお厨子修復も福野さんの手によるものです。

信用と信頼

「うちは一般の仏壇の取り扱ひもしますが、佛具一式の別製(特別誂え)の仕事を中心にさせて頂いて頂いています。創業から変わらずに信用信頼を大切にさせて頂いて頂いています」と、朗らかにお話しく下さいました。

(葦名彰)

■京佛具調進森田屋 福野御佛具處

〒601-8424

京都市南区西九条川原城町1

電話 075-691-8423

Fax 075-691-8423

大悲トピックス

■佛青懇和会研修旅行



① 願慶寺にて ② 専照寺にて

令和6年1月30・31日に大阪教区佛青懇和会研修旅行を開催しました。

今回は福井県を訪れ、一日目は吉崎御坊に参拝しました。東西本願寺の別院にお参りした後、願慶寺のご住職に吉崎御坊の歴史などについてお話しいただきました。

二日目は真宗三門徒派本山・専照寺に参拝しました。宗務長に本山の両堂にてご説明をいただいた後、ご門主と対面させていただきました。三門徒派のお話から現代の浄土真宗全体が抱える課題についてまで、いろいろなお話を聞かせていただく大変貴重なご縁を頂戴いたし

ました。

久しぶりの研修旅行となりましたが、参加者8名、北陸の浄土真宗の有り難い雰囲気を感じさせていただきました。

(佛青懇和会会長 門川崇志)

■大阪別院修正会

毎年大阪別院では、1月2日正午より修正会をお勤めしています。今年も教区内寺院の住職さんと若院さんたちがお参りくださいました。一年の始まり、もろともにお念仏を申させていただくことを有り難く思います。

(大阪別院輪番 葦名彰)

■懇志御礼

愛媛県宇和島市 本光寺様
新潟県長岡市 長善寺様

■お悔やみ

謹んで哀悼の意を表します。

第一組・光台寺

木村長平様 (12月16日寂)

第四組・松林寺

葛義雄様 (1月21日寂)

お墓なんでも相談センター

永遠の想いを像に還るお手伝い



ヨシザワ

株式会社吉澤石材工業所

フリーダイヤル 0120-49-1482

御本山 近 用達

株式会社 川勝法衣店

フリーダイヤル 0120-075-055

(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話(075)371-0367(代)

FAX(075)371-5088

創業100余年・お墓の専門店

石留石材株式会社

土日祝もご相談いただけます(8時~17時)

0120-53-5578

■本社：大阪府藤井寺市津堂2丁目9番29号

発行
大悲の会

仏跡参拝なら専門旅行会社にお任せ下さい!!

~歩もう仏陀の道のを~



株式会社 モントラベル

〒550-0013

大阪市西区新町1-8-1 行成ビル

お気軽にお問い合わせください

TEL. 06-6531-1344

浜屋は関西最大級のお仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の専門店です。

やすらぎの世界を創る



浜屋

お問い合わせお申し込みは

0120-1616-94

●受付時間/午前10時~午後6時30分

だいひ 絵日記

- 1月 2日 (火) 大阪別院修正会 ①
1月12日 (金) 大阪教区新年互礼会
1月17日 (水) 大悲の会編集会議 (総会・第53号読み合わせ)
1月30日 (火) 佛青懇和会研修会 (聖跡参拝) (~31日)
2月 6日 (火) 大悲の会編集会議 (第53号読み合わせ)
2月20日 (火) さつき会研修会 (「ご和讃」ニフレル、講師：門川 絢子 師)
2月21日 (水) 大悲の会編集会議 (第53号読み合わせ)
2月26日 (月) 法友会研修会
(「これからのお寺を、考えましょう」、意見交換会) ②
3月17日 (日) 大阪別院彼岸会 (布教：門川 崇志 師)
3月20日 (水) 大阪別院彼岸会 (布教：脇阪 義仁 師)
3月22日 (金) 大悲の会編集会議 (第53号発送作業・第54号内容検討)
3月23日 (土) 大阪別院彼岸会 (布教：葦名 彰 師)
(法友会=住職会、さつき会=坊守会、佛青懇和会=青年会)



協 賛

佛青懇和会

大阪教区の青年会
(会長：門川崇志)

協 賛

さつき会

大阪教区の坊守会
(会長：玉出みゆき)

協 賛

法友会

大阪教区の住職会
(会長：寺田宗隆)

■誌面広告の募集 (『大悲』発行は広告によって支えられています)

企業・団体・寺院の広告を誌面に掲載させていただきます。

1区画(55mm×40mm)、掲載1回につき5,000円です。

■定期購読の受付 (ご門徒の皆様方にもお渡しく下さい)

『大悲』の定期購読は、1部につき30円です(送料込)。10部単位でお願いいたします。

お寺の掲示板

「おかげさま」

見えないものに

支えられていた私

お寺の掲示板

腹の立て方

よくばり方

どちらも

教わっていないのに

持ち合わせている私

編集秘話

先日、法友が本山佛光寺のお茶所で法話されるということで、ご聴聞してきました。お話の中で、何より毎朝ご聴聞して下さるみなさまのおかげで、お話できる有難さを述べていました。僧侶は教える人ではなく、僧侶もまたたくさんの方にお育ていただいているということを失念してはいけないのです。(中井)

編集後記

「到彼岸」のやかんの話。お餅つき当日は、アルミ製、ステンレス製のやかんそれぞれを2つのコンロにかけました。アルミ製のほうは沸かしては使い沸かしては使いと小回りをきかせ、ステンレス製のほうは一度沸かして放置し必要に応じて使用しました。ホントにどちらのやかんもがんばってくれました。(編集長・隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』 第53号(春号)
令和6年(2024年)4月1日発行 (発行部数 2200部)
発行：大悲の会
事務所：佛光寺大阪別院内
〒558-0011 大阪市住吉区苅田 6-11-24 電話 06-6691-1362
郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」
ホームページ(HP) <http://daihi.org/> (ご意見・ご感想はHP内の「お問い合わせフォーム」より)

大悲の会
長田 譲(会長) 門川 崇志(監事)
隅谷 俊紀(副会長) 佐々木 太一
寿栄松 正頭(会計) 葦名 彰
玉出 宗順(会計) 中井 翔隆